# 研究集会開催報告書

平成 24年 2月 17日

国立天文台長　殿

（代表者）
所属・職名　国立天文台ハワイ観測所・准教授
氏　　名　竹田 洋一　㊞

| | |
|---|---|
| 研究集会名 | 太陽物理学と恒星物理学の相互交流と将来的展望 |
| 開催期間 | 平成23年　12月　26日　～　平成23年　12月　28日 |
| 開催場所 | 東京大学本郷キャンパス理学部1号館336号室 |
| 参加人数 | 96名 |
| 研究集会の概要 | 平成23年度国立天文台研究集会として採択された研究会「太陽物理学と恒星物理学の相互交流と将来的展望」は平成23年12月26-28日の三日間の会期で東京大学本郷キャンパス理学部1号館336号室において開催された。直接その表面を詳しく観察できる唯一の恒星である太陽は恒星研究者にとって重要な存在であるにもかかわらず、あまりに専門分化が進んで太陽物理学者と恒星物理学者の間の研究交流がほとんど存在しなくなっている現状に一石を投じるべく、「一度両者が座をともにしてなるべくわかりやすい言葉で情報交換して互いに理解し合う機会を設けようではないか」との意図で企画した研究会であった。<br>プログラムはI.基調講演、II.太陽物理学・恒星物理学を学ぶ上での基礎、III.太陽と恒星の表面現象、活動とその源、IV.太陽・恒星の質量放出とフレア、V.恒星・銀河・惑星物理学から見た太陽、VI.太陽・恒星観測の現状と将来計画、の6つのセッションにおける35の招待講演（専門外の聴衆を対象としたレビュー講演）と13の寄与講演（最先端の成果をわかりやすく紹介するものなど）で構成された。予想を上回る96名（正式に登録された数）もの参加者があり、会場はほぼ満員の熱気溢れる盛況であった。また京都大学の方々のご好意でインターネットのライブ中継も実施されたので、講演をネットで視聴した人々を加えるとこの数は更に上回るはずである。 |

（裏面あり）

| | |
|---|---|
| 研究集会の成果 | 本研究会において各講演者によってなされたトークは双方の分野の参加者にとって普段聞けなかった多彩な話題が多く大変新鮮で興味深いものであった。太陽研究者は恒星のことを、恒星研究者は太陽のことを、これまで以上に知るための良い機縁となったことは疑いないであろう。今回の企画が太陽研究者と恒星研究者の交わりを深める最初の第一歩になったという手応えだけははっきりと感じ取ることができたので、今後の交流の一層の進展が期待される。また二日目の夜に行われた懇親会では約50名の参加者があり、飲食しながらの歓談で分野の垣根を越えての楽しい交流ができた。<br>　各講演者の方々から講演で用いられたスライドファイルをもとに冊子版の集録を作成した。また参加者から提供してもらった太陽・恒星物理学を学ぶ上で有用な文献・Webサイト・解析ツールなどの情報をまとめた参照データ集（＋太陽基本定数のデータ）も付録として入れてある。本集録（220ページ）は参加者全員に配布したが、入門者向けの内容を多く含むので、太陽恒星物理学の研究者のみならず学生など初学者にとっても有用なものとなるであろう。なおこの集録は<br>http://optik2.mtk.nao.ac.jp/~takeda/ss_phys/ で電子版としても公開している。 |
| その他参考となる事項（希望事項も含む） | |